

実践校に関する事項

学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立海南高等学校大成校舎	河本 好史
学校所在地		
〒640-1131 和歌山県海草郡紀美野町動木 1 5 1 5 - tel 0 7 3 (4 8 9) 2 0 6 9 fax 0 7 3 (4 8 9) 2 4 3 3 e-mail		
担当者名		役職名・担当教科
畑中 美恵		教諭・福祉科

〔学校の概要〕

本校は、海草郡紀美野町動木にあり、紀美野町野上地区の中心地に位置し、新しく開通した国道 370 号線が学校前を走っている。平成 22 年 4 月より長き 85 年の輝かしい大成高校の歴史に幕を閉じ、海南高等学校大成校舎となり、(1 学年 2 クラス生徒数 216 名と職員数 35 名)、大成高校の良き伝統は継承されてきている。

生徒は地元や海南市内 7. 8 割で、その他は紀の川市や和歌山市内からの通学者である。

生徒一人ひとりを大切に、豊かな心を育てる人材育成に取り組み、普通科の中に、大学・専門学校を目指す進学コース、高齢社会に対応できる人材を目指す福祉コース、商業ビジネス系の進学や就職を目指すビジネスコースもあり、希望に合った進路の実現と将来の進路に向けた資格や技術の習得を目指している。

また、地元の保育園、小・中学校との交流、貴志川の大清掃、生石山での自然保護活動などボランティア活動を行い地域に貢献できる人材育成にも積極的に取り組んでいる。

研究実践に関する事項

対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 2・3 年生 35 名	13 名	本校視聴覚室、高野山壇上伽藍、参詣道他

実践研究テーマ

わが郷土の世界遺産から学ぶこと

実践教科等名	単元名
総合学習の時間 「ヒューマンライフ」	世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について 講話学習

〔キーワード〕 世界遺産学習、環境教育、歴史教育、自然保護活動、景観と町づくり

〔単元目標〕

- (1) 高野町の歴史、文化、自然を学び、わが郷土の素晴らしさや人情の良さを感じ取る。
- (2) 講話や体験学習を通して、世界遺産の保存の意義、地域や郷土への愛郷心、観光者を迎え入れる心を学ぶ
- (3) 郷土の世界遺産を身近に感じ、地元の和歌山人として誇りを持って次世代へ引き継げる表現力や意識を高める。

〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕

全体 10 時間 （「 総合の時間・現地学習・まとめ 」 9 時間 ）

〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕

- (1) 和歌山県世界遺産センター……次世代育成事業（現地学習）
- (2) 和歌山県世界遺産センター……「世界遺産入門」 講座
- (3) 和歌山県世界遺産マスター ……現地学習の案内・説明

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	総合の時間（3学年全員） 世界遺産センターより講話 「世界の世界遺産と紀伊山地の霊場と参詣道」	各国の世界遺産の基礎学習、文化遺産と自然遺産について理解し、和歌山県の世界遺産について興味関心を持つ。	視聴覚教室にて ビデオ視聴
2	現地学習及び自然保護活動 世界遺産に関わる人の思いに触れ、文化や自然を保護・保全する意義を体感する。	和歌山県の高野山を訪ね、ビデオ学習したイメージと比較して歴史的文化遺産を学習すると共に修復保護活動を行うことで遺産の大切さを体感する。 班別行動 3班に分け、世界遺産センター職員の方、現地ガイドさんの指示に従う。	自己評価
3	まとめ 現地学習及び自然保護活動の体験を通して整理し表現する。	記述用紙を作成し、思い出に残った点、感動した点等自然・人々・文化・遺産について気付いたことを自由に記述する。	アンケート用紙 感想文 自己評価

〔単元学習の成果と課題〕

成果

- 1) 実際身近に文化遺産の偉大さや荘厳で迫力のあるスケールさを感じ取ることができ深く興味を持つことができた。
- 2) 季節によっても、天候によっても参詣道や散策道などの自然と歴史的な文化遺産は、魅力のあるコントラストをもち、地域や郷土を愛する人々もすべて遺産となっていることを学べた。特に紅葉時期の中で深い感動が得られた。
- 3) 高野山を訪れる観光客や外国人、地元の方々などへ分け隔てなく礼儀・礼節をもって接する大切さを学べた。
- 4) わが郷土の世界遺産をずっと保護していかなければならないことは、私たち県民の責務と誇りであり、また、日本の全ての世界遺産においても同じ視点になることを実感できた。
- 5) 体験することで、感動したことや学習したことを振り返り、まとめ上げる表現力・創造力に大変効果があった。

課題

生徒の中でも初めて高野山を訪れた者が 14 名であり、参加者全員に深い感銘を持たせられた。これを機会に今後は本校の人権教育、環境教育、福祉教育、平和教育などに関連していかなければならないと考える。また、私たち指導者も身近にあっても気付いていない地域素材、地元素材を敏感に捉え、今後も工夫や改良を加え地域、PTA 等と取り組む必要があると考える。

〔世界遺産学習の効果〕

生徒の感想より

- 「皆で今後も高野山を守っていくために、今回のような活動を定期的に行いたい。」
- 「外国人や観光客が訪れた時、高野山はいいところだ。また来たいと思ってもらえるように一人ひとりが心がけるべきだ。」
- 「皆が一生懸命一つになって協力できたことはとても良かった。」
- 「もう少し和歌山のことを知り、和歌山の役に立てる人間になりたい。」
- 「世界遺産マスターさんがとても詳しくわかりやすく説明をして下さり理解できたことは印象的です。」

参加生徒のほとんどは進学・就職の決まった3学年であった。生徒は五感を通して学ぶことができ、仲間同士での助け合い・支え合い・人の役に立てるといふ奉仕的精神・次世代へ引継ぎ保護していかなければならない誇りなど、一人ひとりの心の中に深く残ったと考える。

文化や自然を保存・保護してきたのは、いつの時代にも人々が物を大切にし、人を信じ、助け合い協力し合う気持ちや意識を持って次世代へ引き継いできたからであり、先人の人々の努力の賜物であることが学べたと思う。これを機に自分にも何かできることはないだろうかという生徒の意識が変わり、社会へ出る一歩になっていって貰えたらと思う。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

世界遺産を身近に学んで、世界遺産に登録されている・いないに関わらず、われわれの地域や地元ならではの地域遺産や地元遺産は存在する。自分たちの住む地元や地域の良さを再発見し、地域を大切に思う心を小・中・高だけでなく一般の人も含め広げる取り組みが求められる。

また、私たち指導者も身近にあっても気付いていない地域素材、地元素材を敏感に捉え、今後も工夫や改良を加え地域、PTA 等と取り組む必要があると考える。

様式 2

平成 28 年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

感想文より抜粋

「道普請」こんな言葉は今まで聞いたことがありませんでしたが、私はこの活動を通じて初めて知りました。ここ最近、和歌山県には外国人観光客が増加していて、特に世界遺産の高野山を訪れる人が多いと思います。その中で道普請をすることで、そこを歩く人達のためにはなったことを考えると少し誇れる気がします。道普請では、約2トンの土を埋めていき、道を直していきました。土嚢袋に土を入れていく人、土嚢を運んでいく人、土を固めていく人、個々が力を合わせて道ができたときの達成感は、今でも残っています。今回のような経験をし、高野山を間近で感じることができ、また、世界遺産を肌で感じることもできました。この経験を生かし、これからは役に立てばいいなと思いました。
(3年生徒会長)

高野山は、1200年の歴史が経っていると知ったとき、なんて古いんだ、どうして建物は新しいの？と疑問を抱いていたが、世界遺産マスターさんが詳しく説明してくれたので理解できた。火事で燃えて崩壊したことを聞いたことや壇上伽藍を案内してくれたこと、3本松を持っておくの良いことがあることなどどれもこれも新鮮だった。参詣道の活動では登山客や観光客の人が歩きやすくするために道を補修した。その活動中、道行く人に挨拶をしたとき挨拶を返してくれたので初対面の方々でもお互いに通じるものだと感じました。こんな貴重な体験をさせていただいたことを忘れないようにしたいです。
(3年生)

今回「道普請活動」に参加して、日頃できないことを経験させて頂きました。土を持ちながら山道を歩くのは楽なことではなかったけれど、「しんどい」「嫌だな」と思いつつ楽しんでいる自分がいました。2トンの土を運ぶと聞いたときは、無理だと思ったけれど、みんなで協力して運び終えた後の達成感は大きかったです。今後も世界遺産・高野山を守っていくために、今回のようなボランティア活動などを定期的に行い、外国人や観光客が訪れた時、高野山はいいところだ、また来たいと思ってもらえるように一人ひとりが心がけるべきだと思います。人の役に立つことが出来て良かったです。
(3年生)

壇上伽藍前にて



道普請 土嚢運び係



道普請 土嚢袋へ等分する力仕事係

